

こどもの病気 「おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）」

おたふくかぜは、小児によくあるウイルス性の感染症です。学校や保育所で、ほかの子にうつしてしまうこともあります。また、無菌性の髄膜炎、難聴などの合併症をおこすことがあるので、様子をよくみてあげましょう。

- 原因：ムンプスウイルスの感染です。潜伏期間は2～3週間です。
- 症状：耳の下にある耳下腺がはれます。片方だけのこともあります。ほおからあごにかけてふくらみ、口をあけると痛がります。39度くらいの熱が出ます。はれは1週間くらい続きます。感染しても、症状が現れないこともあります。
- 治療：痛み止めなど、症状に合わせてくすり処方されます。
(治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。)
- 病院に行くタイミング：高熱が続いたり、水分もとらなくなったり、ぐったりしていたら受診しましょう。一度熱がさがっておちついたのに、再度、熱が上がり、吐気などの症状が出たとき。
- いつから学校（保育所）にいったいい？：はれがひくまでは、ほかの子にうつります。1週間くらい出席停止になります。
- おうちでできること：
 - 休む・・・家でゆっくりしていきましょう。あごを冷やしたり、暖めたり、本人の気持ちのよいようにしてあげましょう。
 - ごはん・・・口をあけるのがつらいので、やわらかめの食べやすいものにしてあげましょう。すっぱいものはやめましょう。無理に食べさせる必要はありませんが、水分はとりましょう。
 - お風呂・・・少し落ち着いたたら、さっと汗を流すほうが、きもちよいでしょう。
- 予防：1歳になると予防接種を受けることができます。

おたふくかぜから無菌性髄膜炎になってしまうことがあります。ほとんど場合は安静にしていれば、よくなります。髄膜炎ときくと怖い病気に聞こえるかもしれませんが、無菌性(ウイルス性)の場合は、くすりをつかうよりも安静が一番です。お医者さんの指示にしたがいましょう。

今回のおはなし 「何回もおたふくに・・・？」

耳下腺のはれる病気は、おたふくかぜだけではありません。反復性耳下腺炎は、おたふくかぜに似ていますが、違うものです。熱は出ません。うつりません。2～3日で治ってしまう。何回もなる。などです。でも、初期にはおたふくかぜと区別はつきません。

おたふくかぜになっていないと、何度も学校を休まなくてははいけません。血液検査でおたふくかぜの免疫があるとわかれば、休まなくても大丈夫です。

